

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)(案)

令和6年1月 日

協議会名: 大樹町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大樹町	運行系統名: 市街地循環バス 運行区間: コスモール大樹～役場前～コスモール大樹 運行回数: 4回/日、121回/年※ ※令和4年12月より運行開始 運賃: 100円/回	これまでの実証運行の結果から、住民からバス停が分かりにくいなどのご意見を踏まえ、主な利用者である住民が一目で分かり、かつ除排雪等の影響を受けにくくするため、バス停を設置するのではなく、北電と連携の基、電柱へのバス停表示を実施し、運行経路の伝え方について工夫を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標①の市街地循環バスの利用者数は1,802人と目標としていた1,500人を大きく上回る結果であった。また、目標③の公共交通に対する意見件数は市街地循環バスを運行させて以降、改善してほしいことなどの要望が増加しており、目標を上回る結果であった。一方で、目標②の公共交通カバー率については、農村部のデマンド化が未実施であることから目標の98.0%には届かず76.0%であった。また、目標④の免許返納者数については、目標値30人に対し、実績値は19人と低調であったほか、目標⑤のクロスセクター効果についても、人件費や燃料費の高騰等により目標の11,000千円に対し、10,259千円と目標を下回る結果となり、これらについて引き続き検討・改善を行うことを予定している。	●さらに利用者を増加させるためには、より周知活動に力を入れることも重要であり、本来、今年度から市街地循環バス-コミュニティバス「コスモ」や十勝バス広尾線なども含めたバスマップを作成・配布することも想定していたが、各路線の時刻変動など、定める機会を逸したことから、令和6年度当初から配布することを想定している。 ●ふまねっと開催時は、コスモだけでは輸送しきれていない状況が発生しており、車両の大型化も検討しているが、EV車両の中型車への切り替えを想定していることから、該当する車両が見つかり次第、切り替えを検討する。